

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	どんぐりのいえ		
○保護者評価実施期間	令和7年12月1日		令和7年12月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19 (回答者数)	15
○従業者評価実施期間	令和7年12月1日		令和7年12月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3 (回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【人間関係・社会性】 個々の特性や思春期の心に寄り添う、共感的で受容的な支援体制	お子さまの否定的な感情も受け止める「受容的態度」を職員間で徹底しています。保護者からも「子供に寄り添った支援」「悩みや不安に寄り添ってくれる」との声を多数いただいています。	職員のスキル向上を目指し、外部研修への参加や事例検討会を継続します。また、この強みを活かし、保護者様との信頼関係を基盤とした「家庭での関わり方」の助言機能を強化します。
2	【健康・生活】 清潔で構造化された、安心できる環境（広い敷地・視覚支援）	広い敷地を活かした活動スペースの確保や、クールダウンエリアの設置など、特性に応じた環境設定を行っています。衛生管理も徹底し、保護者から高評価を得ています。	構造化された環境を維持しつつ、お子さまの成長に合わせてレイアウトを柔軟に変更します。この環境を活かした「感覚統合」につながる運動プログラムを充実させます。
3	【言語・コミュニケーション】 5領域に基づいた質の高い個別支援計画と丁寧な説明	ガイドラインの5領域を網羅した計画を作成し、モニタリング時には丁寧に説明を行い、同意を得ています。個別のニーズ分析が適切になされています。	現在の計画内容の質を維持しつつ、お子さまの「自己決定」の機会をさらに増やす支援目標を設定し、自立に向けた意思決定支援を強化します。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	【安全対策の周知不足】 避難訓練等の実施状況が保護者に伝わっていない	定期的に訓練を実施しているものの、日中の活動時間内を行うため、保護者の目に触れる機会が少なく、発信も不足していました（「わからない」という回答が複数あり	【活動の見える化】 避難訓練や防犯訓練の様子を写真に撮り、お便りやHP等で定期的に配信します。「いつ、どのような訓練をしたか」を可視化し、保護者の安心感につながります。
2	【家族支援・交流の不足】 保護者向け勉強会やきょうだい支援、親同士の交流機会が少ない	これまで個別の送迎時対応や面談を重視するあまり、全体向けの研修会や、きょうだい参加できるイベント等の企画・実施ができていませんでした。	【家族支援プログラムの導入】 まずは負担の少ない「茶話会」や「親子参加型イベント（夏祭り等）」から企画します。また、ニーズの高いテーマ（進路、特性理解など）でのミニ勉強会の開催を検討します。
3	【地域・他者との交流】 地域との関わりやインクルージョンの機会が限定的	事業所内での活動が中心となり、地域行事への参加や、他事業所・近隣の子供たちとの交流機会を意図的に設定できていませんでした。	【社会資源との連携強化】 公園利用時の地域の方との挨拶運動から始め、将来的には地域行事への参加や、ボランティア受け入れなどを通じ、お子さまが地域社会と接点を持てる機会を創出します。